

平成 25 年度 第 1 回文系チャレンジ講座を実施しました (H25/6/19)

平成 25 年度第 1 回文系チャレンジ講座が、2013 年 6 月 19 日、「どうして税金って必要なの？」をテーマとして、本学経済学部
の菅野 隆教授によって行われました。遠隔配信された大分雄城台(おぎのだい)・大分鶴崎・大分商業・安心院(あじむ)・日田
の 5 校(174 名)と、来学した高田・佐伯豊南の 2 校(22 名)を合わせて、計 196 名の高校生が受講しました

今回の講座は「どうして税金は必要なのですか」という質問から始まりました。菅野教授は、「買い物をしたり、DVD を借りると
いったサービスを受けた場合、皆さんも消費税 5%を負担しますね。皆さんが店に支払った消費税はどのようにして国庫に収
められていくのでしょうか。また、消費税を含む税金はどうして必要なのでしょう。」と受講生に問いかけました。

菅野教授は、受講者に予め 100 円玉 4 枚と 50 円玉 2 枚を準備させ、消費者が負担した消費税 500 円が、どのように納付さ
れるかということを解説しました。消費者が負担した 500 円は消費者に販売した小売店が全額を納付するわけではなく、品物を
消費者が手にするまでには、「製造業者→卸売業者→小売業者」と何段階かの取引がおこなわれ、それぞれの取引に基づい
て各業者が納める消費税を合計すると、消費者が負担した 500 円になるのだということを受講生に実際にお金を動かしてもら
いながら、解説をおこないました。

また、「学園祭でうどんを売った場合、消費税はどうなるのか。」という問題を受講生に投げかけました。この場合、「事業者が
事業として行うもの」ではないため、消費税の申告・納付は必要ありません。

それ以外に、消費税がかからない取引が 13 項目もあることを知り、税について受講生は意識を高めることができました。

現在、公債残高が膨れあがり、一方で少子高齢化が急速に進んでいるため、社会保障と税の一体改革が進められています。
そのため、2015 年 10 月までに消費税率が 10%へ段階的に引き上げられる予定ですが、今回の講義は、税金やその使い道に
対して関心を持つきっかけとなりました。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(91%)、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同
じ、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「授業内容はわかりやすかった」(83%)、「板書(スライド)は適切だった」(75%)、「受講
生は授業に意欲的に取り組んだ」(92%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(93%)、「映像
はよく見えた」(48%)という結果がでました。一部の高校で、映像画面が小さく、見づらかったと指摘があり、終了後、改善をし
ました。

受講生の具体的な声として、「他校の生徒と受講でき、授業に対する意欲が高まった」「消費税 5%のうち 1%は地方消費税
(地方税)であることを知ることができた」「大学の授業の雰囲気を感じ取ることができた」「メモを取る早さが遅く、普段の授業で
改善すべき点がわかった」「少し難しい内容があったが、大学の授業を体験でき、先生の真剣さが伝わってきた」など多くの感
想が寄せられました。税を通して社会の動きを細かに見ることの大切さを受講生が理解した講座でした。

